青山フィルハーモニー管弦楽団

第 38 回外苑祭コンサートプログラムパンフレット別冊

発行日：2007 年 9 月 1 日

編集・発行：青山フィルハーモニー管弦楽団

■ プログラム

曲目

ワーグナー／歌劇『リエンツィ』序曲

ドヴォルザーク／「スラヴ舞曲集」第 1 集より第 2 番、第 8 番

リムスキー＝コルサコフ／歌劇『ムラダ』より「貴族たちの行進」

会場：東京都立青山高等学校体育館

開場：午前 11 時、受付開始：午前 11 時 30 分

開演：午後 0 時 30 分

指揮者

堀仁美（ワーグナー）、齊藤美海（ドヴォルザーク）、岡村繁（リムスキー=コルサコフ）

■ コンサートのききどころ

第 38 回外苑祭コンサートでは、例年以上に趣向の凝らされた選曲がなされています。

一曲目は、リムスキー＝コルサコフの歌劇『ムラダ』より「貴族たちの行進」です。交響組曲『シェヘラザード』（1888 年）で色彩に富む管弦楽の極点に達したリムスキー＝コルサコフの音楽を楽しむことのできる作品で、明快な展開と親しみやすい旋律が印象的です。

続いて演奏されるのは、ドヴォルザークの「スラヴ舞曲集」第 1 集より第 2 番と第 8 番です。

ウクライナ起源のスラヴの民族音楽であるドゥムカが印象的で、夢想的な雰囲気も漂わせる第２番と、スラヴ舞曲集全 16 曲の中で最も高い頻度で演奏される、フリアント形式による第８番。性格も表情も違う２つの曲をお楽しみください。

最後に取り上げるのは、2007 年度の青フィルの年間曲でもある、ワーグナーの歌劇『リエンツィ』序曲です。

ヨーロッパ楽壇の一大中心地であったパリで名声を博すことを目指して作られた『リエンツィ』は、当時のパリ音楽界に君臨していたマイアベーアの作風に影響された歌劇として知られます。『リエンツィ』は、今から 165 年前の 1842 年 10 月に初演された、ワーグナー初期の作品であるとともに、彼にとって初めて成功を収めた歌劇でもありました。

イギリス人の作家エドワード・ブリュワー＝リットンの小説『リエンツィ』をもとにワーグナー自身が台本を書いた『リエンツィ』は、14 世紀前半に実在したローマの愛国者リエンツィを主人公とする作品です。

貴族たちの専横を排除し、かつての共和制を取り戻すため民衆とともに蜂起したリエンツィが一度は勝利を収め、「護民官」としてローマを統治するものの、貴族勢力の反撃によって炎の中で最期を迎えるまでを描く序曲は、雄大さと繊細さ、明快さと神秘さをつむぎだす佳曲です。

19 世紀のヨーロッパ音楽界の大きな流れを作っただけでなく、今日に至るまで世界中の歌劇場や管弦楽団にとって欠かすことのできない作曲家であるワーグナー。そのワーグナーを手本として作曲家の道を歩みながら、後にワーグナーと対峙したブラームスの後継者と目され、やがてチェコの国民音楽に身を捧げることとなったドヴォルザーク。そして、「ワーグナーの音楽はやがて人類共通の遺産となる」と考えられていたロシア楽壇の重鎮として、ワーグナーの多層的な音楽とは異なる道を歩みながら独自の方向性を模索したリムスキー=コルサコフ。

いずれも聞くものの耳に深い足跡を残す曲にどのように取り組むか、青フィルの演奏にご期待下さい。

外苑祭コンサートの記録や過去のパンフレット別冊は、下記の青フィル公認サイトでもご覧いただけます。
URL：http://aoyamaphilharmonic.hp.infoseek.co.jp/index.html

■ 10 回目の年間曲

今年で 38 回目を迎えた外苑祭コンサートですが、「年間曲制度」が始まって今回で 10 回目となりました。

そこで、今回は、年間曲がどのような道のりをたどってきたかを振り返ってみます。

◇年間曲とは？

年間曲とは「一年間を通して演奏する曲」のことで、9 月の外苑祭から翌年 4 月の定期演奏会まで、様々な場面で演奏される、文字通り一年間をかけて取り組む曲です。

一年を通して練習が重ねられるだけに、演奏会のたびに進歩や変化の跡が見て取れることも年間曲のもつ大きな意義のひとつです。また、年間曲として取り上げられる曲は、各年度の代名詞として青フィルの団員や観客の皆さんから広く親しまれています。

◇これまでの年間曲

これまでに青フィルが年間曲として取り上げてきたのは、7 人の作曲家の 8 つの作品です。（表 1）

年度	作曲者	曲名	指揮
1998 年度	エルガー	威風堂々第 1 番	川原明宏
1999 年度	ワーグナー	『ニュルンベルクのマイスタージンガー』第 1 幕への前奏曲	高倉彩
2000 年度	シベリウス	交響詩『フィンランディア』	村尾雄太
2001 年度	ドヴォルザーク	序曲『謝肉祭』	大部恵美
2002 年度	ブラームス	大学祝典序曲	小原道子
2003 年度	シュトラウス 2 世	『ジプシー男爵』序曲	森詩織
2004 年度	ドヴォルザーク	序曲『謝肉祭』	中村静帆
2005 年度	ブラームス	大学祝典序曲	高橋彩
2006 年度	チャイコフスキー	スラヴ行進曲	西村新
2007 年度	ワーグナー	歌劇『リエンツィ』序曲	堀仁美

(表 1) 青フィルの年間曲

ドヴォルザークの序曲『謝肉祭』とブラームスの大学祝典序曲はそれぞれ 2 回ずつ演奏されており、年間曲の中でも人気の高い作品であることがうかがわれます。

また、シュトラウス 2 世の『ジプシー男爵』序曲（2003 年度）やワーグナーの歌劇『リエンツィ序曲』（2007 年度）のように、一般的な演奏頻度が決して高くない曲も選ばれており、青フィルの積極性が看取されるといえるでしょう。

◇「もったいない」という気持ちから始まった年間曲制度

年間曲の制度が始まったのは 1998 年度のことでした。

それまでは、外苑祭コンサートの主要曲、いわゆる大曲だけは秋に開かれる東京都高等学校文化祭音楽部門第 2 地区大会で演奏されましたが、その他の曲は外苑祭が終わると演奏されることはありませんでした。つまり、定期演奏会へはすべて新しい曲で臨んでいたのです。

「外苑祭で取り上げた曲をその後も取り組めば、もっと違った演奏ができるのに」という声もありましたが、選曲などで具体的な動きが示されることはありませんでした。

こうした状況の中で、「1 年生のときに、外苑祭まで演奏してきた曲をそれ以降弾かないことをもったいなく感じていた」1998 年度のコンサートミストレス齋藤麻衣さんが中心となって、「1 年間ずっと演奏する曲を決めよう」と発案しました。

この発案は団員の支持を集め、エルガーの威風堂々第 1 番が青フィル初の年間曲として選ばれたのでした。

◇年間曲制度の効用

年間曲制度導入の背景には「もったいない」という気持ちもありましたが、同時に「1 年間ずっと演奏する曲を決めれば、地区音楽大会にも余裕を持って出られるのでは」という予想と、「開催時期が東京都高等学校文化祭音楽部門中央大会と重なるため、練習時間が足りないために無理だと言われていた全国高等学校選抜オーケストラフェスタ（オケフェス）にも出場できるのでは」（齋藤麻衣さん）という考えがありました。

この考えは正しく、青フィルは 1999 年 1 月 9 日に開催された第 5 回オケフェスに出場し、高い評価を獲得することができました。以後、オケフェスへは青フィルにとって重要な行事となり、2006 年度まで 9 年連続の出場を果たしています。

◇年間曲の思い出

最後に、1998 年度の常任指揮者で、年間曲を初めて指揮した川原明宏さんが寄稿された、年間曲にまつわる思い出をご紹介します。

青フィル 2000 年卒業の川原明宏と申します。

私たちが２年生のときに、青フィルの活動における新しい企画の一環として考案されたのが年間曲制度です。

その演奏曲として選ばれたのが、エルガー作曲の「威風堂々」第一番でした。

この曲は、勇壮な行進曲風のパートと荘厳なパートとが交互に登場する曲で、演奏するにあたっては両者の違いを明確にする事に苦労いたしました。

年間を通してさまざまな機会に演奏し、大変思い入れのある名曲です。